

地域概略

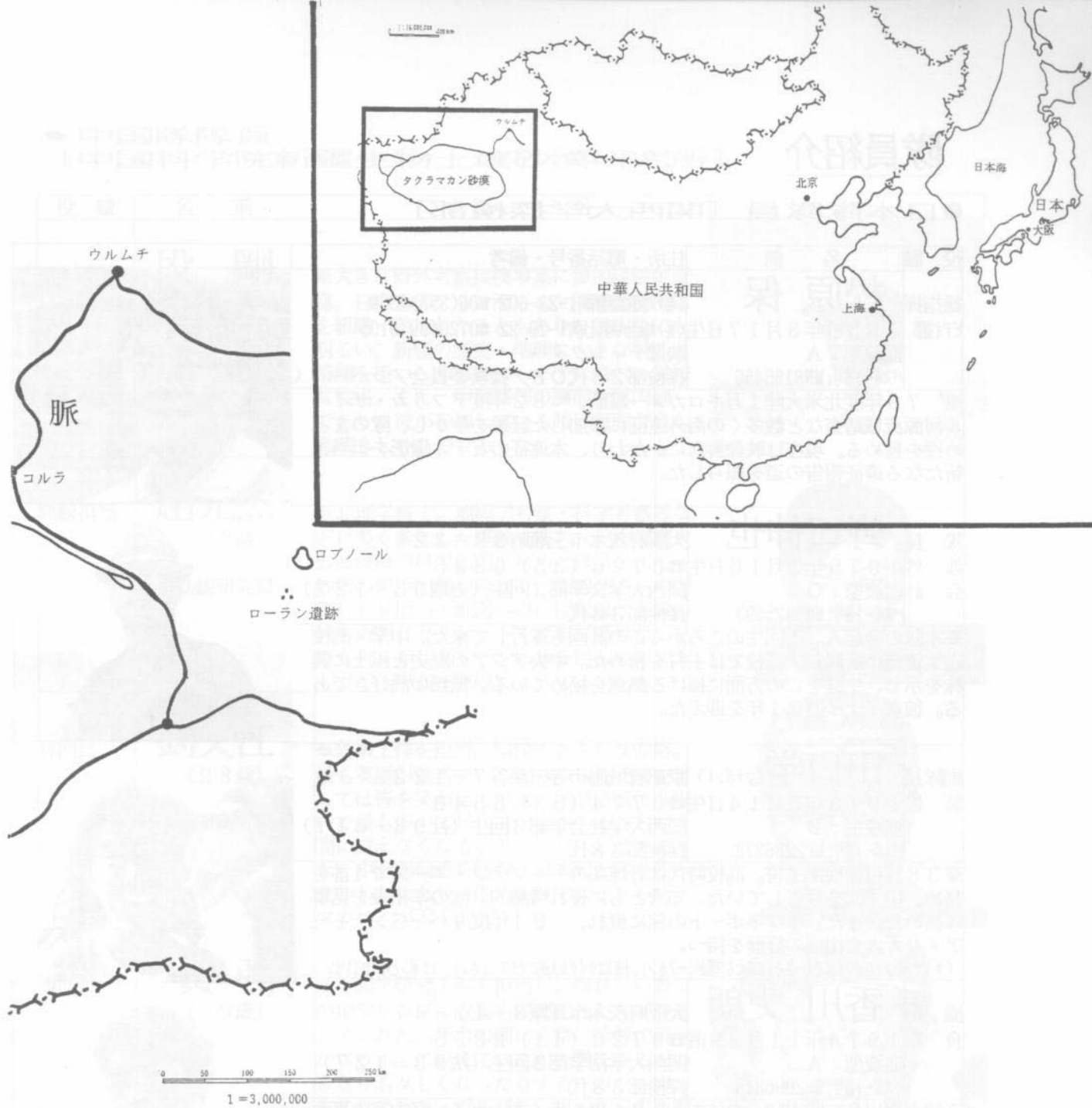


1. 新疆ウイグル自治区

中華人民共和国の西北部国境・新疆ウイグル自治区は、中国でも最大の面積をもつ、砂漠と岩山の国である。旧ソ連、モンゴルなどと国境を接し、東アジアの一部というよりはむしろ中央アジアの色合いが濃い。人口600万、自治区の70パーセントを越えるウイグル族は、イスラム教を信奉するトルコ系民族であり、言語も変形アラビア文字を使用したウイグル語を用いる。かつて、この土地は西域と呼ばれた。歴史的に見ると、ここはすでに中国ではない。シルクロードの真ん中に位置する異国である。事実、今日は中華人民共和国の一省となっはいるが、その文化・生活・風土は中国よりも中東に近いものがある。省都はウルムチ。北部の山岳部に位置する高原の都市であり、現在この町は急速な都市化が進んでいる。

2. タクラマカン砂漠

新疆ウイグル自治区を形作るタリム盆地は、北に天山山脈、南に崑崙山脈、西にパミール高原に囲まれた中央アジア最大の盆地である。タクラマカン砂漠はこのタリム盆地のほぼ全てを覆う巨大な砂漠である。その大きさ実に東西1000km、南北400km。サハラにつき世界第二の大きさを誇るこの砂漠は、古くよりシルクロード最大の難所として、恐れられてきた。法顯は「上に飛ぶ鳥無く、下に走獣なし」とこの苛



酷な環境を説明している。また玄奘三蔵法師は砂漠に住む悪霊が人を呼ぶ話を記している。現地のウイグル人達は「死の砂漠」と呼ぶこの砂漠は、近年に至るまで全く前人未到の秘境であった。それというのも、海洋の影響を全く受けなため、極度の乾燥地帯である。夏は40度をゆうに越え、冬はまたマイナス10度を下る。昼夜の温度差は極端で、約10~20度に及ぶ。春には砂嵐が吹き荒れ、目も開けられない。というような苛酷な環境が、長年人間の侵入を拒んで来たからである。

この砂漠において初めて科学的な探検活動を行ったのが、スウェーデンの大探検家スウェン=ヘディンである。彼は1895年、駱駝と徒歩によってマサルターグ山脈の確認と地理学的調査を目的にタクラマカンに入った。スタート地点はメルキト。最も砂漠に面した村である。結局彼の探検は多くの死者を出し、マサルターグをも確認出来ず、失敗に終わった。これがちょうど100年前の出来事である。

現在、ランドサット衛星のリモートセンシング技術の発達によって砂漠の精密な地図が完成している。内部には近年発見された石油を掘り出す油田が存在し、また1995年度にはミンフォン~コルラ間に、砂漠縦断道路が開通した。開発は年々進んでいる。だが、それでもなお砂漠の大部分は未到の地であり、数多くのまだ発見されていない、かつてのシルクロードの中継都市の遺跡が、砂の海に抱かれて眠っていると思われる。